



09

パラリンピック競技大会

- 一つに統合された祭典の中で行われるコンパクトな大会
- ・オリンピックとパラリンピックを60日間の一つの祭典として開催
- ・都市のアクセシブル・デザインの最良事例を示すプラットフォーム
- ・95%の競技会場を選手村から半径8km圏内に配置
- ・日本における障害者スポーツ発展の契機
- ・オリンピックと統合された一つの組織委員会

9.1 パラリンピック競技大会を開催するに際しての全体的な考え方及びコンセプトを説明してください。
 パラリンピック競技大会が、貴国・地域にどのようなレガシーをもたらすか、スポーツや社会の発展にどのように寄与するかについて説明してください。

全体的な考え方、コンセプトとレガシー

考え方&コンセプト

東京2020が提案するコンセプトの全体像は、全てのひとを差別なく社会に取り込み、障害者のニーズと興味に思いをはせることで、より良い世界を築き、社会全体により明るい未来をもたらすことができる、というメッセージをパラリンピック競技大会を通じて示すことである。これは、「Discover Tomorrow」というビジョンの欠かすことのできない一部となり、パラリンピック競技大会の重要なレガシーとなるであろう。

2020年東京パラリンピック競技大会は、真にかつ明確に参加する選手が最高の競技力を発揮できる環境を提供することを念頭において計画され、オリンピック・パラリンピック両競技大会は選手の達成感と才能の開花をもたらすスポーツの祭典となる。

パラリンピック競技大会を、オリンピック競技大会から連続した60日間のひとつの祭典として実施することが基本的なコンセプトとなるが、当然のことながら両大会はそれぞれ独自の個性や雰囲気をも有する。

パラリンピックの競技会場、練習会場、選手村、大会サービスやスタッフは、オリンピックのものと同様ではあるが、パラリンピック特有の要件についても十分に配慮し、選手に素晴らしい環境を提供するとともに、全てのパラリンピック大会関係者への貴重な経験を約束する。

選手村を中心とする半径8km圏内に、IBC/MPC、IPCホテル、そして射撃を除くすべての競技会場を配置する。これにより、選手が最高のパフォーマンスを発揮する機会を提供することができる。また、選手が最大限に力を発揮できるよう、選手村には世界最高水準のバリアフリー施設や設備を備える。

レガシー

東京は、公共の交通機関及び施設に関しては世界有数のアクセシビリティの高さを誇る。オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、地域社会全体にわたりより良いアクセスを確保するため最新技術と革新的建築をどのように活用するかを世界に示す絶好の機会となる。これによりアクセシビリティがさらに拡大・改善され、共生社会にさらに貢献することとなる。

テーマ1の1.4、1.5、1.7で述べたように、オリンピック競技大会とパラリンピック競技大会の開催は、東京、日本、そしてオリンピックムーブメントに幅広いレガシーをもたらす。そして、その多くは障害者の「機会」を拡大する。

例えば、東京都は長期都市戦略である「10年後の東京」(2006年-2016年)において、ユニバーサルデザインや障害者に対する施策について重要な約束をしているが、2020年に向けた新たな戦略である「2020年の東京」においても継続してその施策を推進していく。

パラリンピック競技大会を開催することで、そうした取組がさらに促進されるだけでなく、2020年東京大会が障害のある人々が新たにスポーツに取り組むきっかけとなるといった、さらに幅広いレガシーをも

たらすことができる。こうしたことにより、以下の取組が促進される。

- ・障害者を含む、すべての人々が身近でスポーツを楽しめる環境整備を行う。
- ・健常者と障害者のスポーツ団体が連携し、選手の強化や指導者の育成を促進する。

パラリンピック競技大会は、アクセシビリティに配慮した会場やインフラの整備を促進する。その結果、オリンピック・パラリンピック関係の施設や公共交通だけでなく、東京のまち全体が、障害者や高齢者をはじめとするすべての人々にとって、安全で快適に移動できるようになり、ユニバーサルデザイン都市・東京の実現が促進される。

また、パラリンピック競技大会はコミュニケーション上のバリアフリー化及びアクセシビリティを実現し推進するために、実証された最新技術を活用する。大会は、共生社会を実現し、障害者の自立を支援する。また、以下の取組を促進する。

- ・障害の有無に関わらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支えあう共生社会を実現する。
- ・障害を持つ人々が日々直面している問題や、パラリンピックの価値や理念等について知り、身近な問題として考える機会を増やし、人々の理解を深める。
- ・継続的に学校や企業への教育プログラムを実施する。
- ・「2020年の東京」においても推進することとしている、障害者の勤労条件の向上や、障害者が働き続けられる環境づくり、障害者の社会参加や地域との交流の活性化などの取組を加速する。

9.2 以下の日付を示してください。

- ・パラリンピック選手村の開村
- ・パラリンピック開会式
- ・パラリンピック閉会式
- ・パラリンピック選手村の開村

主要期日

パラリンピック選手村の開村：2020年8月18日(火)
 パラリンピック開会式：2020年8月25日(火)
 パラリンピック閉会式：2020年9月6日(日)
 パラリンピック選手村の開村：2020年9月9日(水)

2020年東京パラリンピック競技大会は、オリンピック競技大会の16日後に開催され、オリンピックで生まれた興奮と感動をパラリンピック競技大会へと伝える。

この期間は穏やかな気候の日が多く、選手の最高のパフォーマンスが期待できるだけでなく、多くの観客を魅きつけることができる。また、都内の小・中・高等学校の学期期間と重なっており、教育活動の一環として多くの子供たちに観戦の機会を提供することも可能である。一方、東京に立地する大学の多くは夏期休暇中であり、大学生がボランティア又は観客として参加しやすい時期でもある。

9.3 貴国/地域/都市で過去10年以内に開催したことのある障害者を対象とした主な競技大会の例を挙げてください。

障害者スポーツ競技大会の経験

わが国は、東京のみならず他の地域においても、多くの障害者スポーツ競技大会を開催した経験を有する。

東京は、2009年のアジアユースパラ競技大会の開催により、貴重

な障害者スポーツ特有の経験を得た。さらに、アジアの若者に高レベルな競技機会を提供し競技力の向上を図った。彼らは2020年に再び東京で競技したいという意欲を持つであろう。それ以降、アジアにおいて障害者スポーツの普及が継続的に促進されている。アジアユースパラ競技大会は、パラリンピック競技に対する人々の認識と興味を呼び起こす大きな契機ともなった。

9.4 組織

9.4.1 貴国における国内パラリンピック委員会の位置づけと組織について説明してください。また、関係するその他の障害者団体・組織の名前も挙げてください。政府当局や他のスポーツ団体との関係について詳しく述べてください。

日本では、1964年に開催されたパラリンピック東京大会を契機に、わが国の身体障害者スポーツの普及・発展・振興を図る統括組織として、1965年に財団法人日本身体障害者スポーツ協会(JSAD)が設立された。

現在は公益財団法人である日本障害者スポーツ協会は、政府当局からの援助、支援を受け、都道府県及び指定都市に設置されている障害者スポーツ協会・スポーツ指導協議会等との緊密な連携により、全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ競技大会をはじめとする全国規模の障害者スポーツ大会を開催している。また、2011年に制定された「スポーツ基本法」においては、国際競技大会の招致・開催等による国際的な規模の障害者スポーツの振興もその役割の一つとされている。

表 9.3 障害者スポーツ競技大会の開催実績

年月	競技名	大会名	開催場所	
毎年	総合競技	全国障害者スポーツ大会	-	
	総合競技	ジャパンパラ競技大会	-	
	陸上競技	大分国際車いすマラソン大会	大分県	
	陸上競技	国際盲人マラソンかすみがうら大会	茨城県	
	陸上競技	国際視覚障害者マラソン大会(青島)	宮城県	
	車椅子バスケットボール	国際親善車椅子バスケットボール大阪大会	大阪府	
	車椅子バスケットボール	北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会	福岡県	
	車いすテニス	ジャパンオープン(飯塚国際車いすテニス大会)	福岡県	
2012	10	ゴルフ	第9回世界デフゴルフ選手権	三重県
2012	9	トライアスロン	ITU世界トライアスロン横浜大会	神奈川県
2012	4	卓球	2012世界ろう者卓球選手権大会	東京都
2012	1	アイススレッジホッケー	2012ジャパンアイススレッジホッケー選手権大会	長野県
2011	12	視覚障害者5人制サッカー	第4回IBSA B1フットサルアジア選手権大会	宮城県
2011	9	トライアスロン	ITU世界選手権大会横浜大会	神奈川県
2009	12	視覚障害者5人制サッカー	第3回IBSA視覚障がい者サッカーアジア選手権大会	東京都
2009	9	総合競技	第2回アジアユースパラ競技大会	東京都
2008	5	パワーリフティング	日韓交流戦	東京都
2008	2	アルペンスキー	IPC障害者アルペンスキーワールドカップ2008ファイナル白馬大会	長野県
2007	10	脳性麻痺者7人制サッカー	日韓社行試合	千葉県
2007	10	電動車椅子サッカー	第1回FIPFAワールドカップ2007	東京都
2007	10	知的障害者卓球	第5回INAS-FID世界知的障害者卓球選手権大会	千葉県
2006	9	車椅子バスケットボール	INAS-FID 世界車椅子バスケットボール世界選手権大会	神奈川県
2005	9	馬術	第1回アジアパシフィック地区パラエクストリアンビデオ競技会	愛知県
2005	8	ボート	世界ボート選手権	岐阜県
2005	2	総合競技	スペシャルオリンピックス冬季世界大会	長野県
2004	11	車いすダンス	2004IPC車いすダンススポーツ世界選手権大会	東京都
2003	12	ボウリング	第1回IBSA アジア視覚障害者ボウリング大会	東京都
2003	9	ウィルチェアアーラグビー	第2回 オセアニアゾーン選手権	千葉県
2003	7	シッティングバレーボール	アジアチャンピオンシップ 女子	千葉県

日本パラリンピック委員会(JPC)は、1998年のパラリンピック長野大会を契機に、身体・知的・精神の三障害すべてのスポーツ振興を統括する組織として、また国際舞台で活躍できる選手の育成・強化を担う統括組織として、日本障害者スポーツ協会内部に設置された組織であり、委員長、運営委員会、競技団体会議、加盟競技団体(61団体)、事務局で組織されている。

9.4.2 パラリンピック競技大会開催のために組織委員会内部でどのような組織統合を行っているか、特に理事会、上級管理職、パラリンピック部門と他の部門間の関係について言及してください。

1つの組織で2つの競技大会を開催

東京は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会を1つの大会組織委員会によって準備・開催する。

オリンピックとパラリンピックの期間を通じ、世界的なスポーツの祭典として継続性を持った一体的な運営を行うこととし、そのことを大会組織委員会のあらゆるレベルの職員に徹底する。

また、大会組織委員会の理事会には、日本パラリンピック委員会(JPC)の会長等のパラリンピックムーブメントを代表する者が構成員として加わる。大会組織委員会には、パラリンピックスポーツに関する経験や知識を有するスタッフからなる、パラリンピック競技大会専任の部門を設置する。他の部門と緊密に連携を図ることで、効率性を最大化すると共に運営上の変更を最小化する。

9.5 会場

9.5.1 以下を表9.5.1に記入してください。

- ・競技会場及びその他会場の総数
- ・会場名(オリンピック競技大会に使用される会場については同じ名称を用いること)
- ・各会場の予定されている用途
- ・パラリンピック競技大会のニーズを満たすために必要な改修/建設、費用見積額(予定される車いす座席を含む)
- ・オリンピック競技大会に使用されない会場について、会場所有者とのパラリンピック競技大会に関する交渉状況(保証書取得/予定日)
- ・パラリンピック競技大会競技会場の(既設の車いす座席を含めた)座席総数

表 9.5.1 パラリンピック会場

会場	用途	総座席数	既存車いす座席	必要な改修/建設	予定車いす座席	改修見積額(百万円)	会場所有者との交渉状況
競技会場							
ヘリテッジゾーン							
オリンピックスタジアム	陸上競技	80,000	960	小規模な改修	960	34	保証書取得済
東京体育館	卓球	8,000	120	小規模な改修	120	177	保証書取得済
国立代々木競技場	ウィルチェアーラグビー	12,000	216	小規模な改修	216	5	保証書取得済
日本武道館	柔道	11,000	110	小規模な改修	110	3	保証書取得済
東京ベイゾーン							
有明アリーナ	シッティングバレーボール	15,000	195	小規模な改修	195	5	保証書取得済
有明ペドロローム	自転車競技(トラック・レース)	5,000	50	小規模な改修	50	2	保証書取得済
有明体操競技場	ゴールボール	5,000	120	小規模な改修	120	4	保証書取得済
有明テニスの森	車いすテニス	10,000	150	小規模な改修	150	6	保証書取得済
		3,000	45	小規模な改修	45		
お台場海浜公園	自転車競技(ロード・レース)	10,000	100	小規模な改修	100	3	保証書取得済
							トライアスロン
東京ビッグサイト・ホールA	パワーリフティング	5,000	100	小規模な改修	75	47	保証書取得済
東京ビッグサイト・ホールB	ボッチャ	5,000	75	小規模な改修	75	46	保証書取得済
大井ホッケー競技場	視覚障害者5人制サッカー	4,000	50	小規模な改修	50	36	保証書取得済
							脳性麻痺者7人制サッカー
海の森水上競技場	カヌー	14,000	210	小規模な改修	210	4	保証書取得済
							ボート
若洲オリンピックマリーナ	セーリング	2,000	20	小規模な改修	20	1	保証書取得済
							(+3,000)
夢の島ユース・プラザ・アリーナA	車椅子バスケットボール	7,000	105	小規模な改修	105	9	保証書取得済
夢の島ユース・プラザ・アリーナB	車いすフェンシング	7,000	105	小規模な改修	105	9	保証書取得済
夢の島公園	アーチェリー	18,000	234	小規模な改修	234	9	保証書取得済
夢の島競技場	馬術	7,000	105	小規模な改修	105	4	保証書取得済
オリンピックアクアティクスセンター	水泳	14,000	168	小規模な改修	168	4	保証書取得済
オリンピックアクアティクスセンター	水泳	20,000	300	小規模な改修	300	9	保証書取得済
その他の競技会場							
陸上自衛隊朝霞訓練場	射撃	4,600	69	小規模な改修	69	2	保証書取得済
競技会場数: 20							
非競技会場							
成田国際空港	-	-	-	-	-	0	-
羽田空港	-	-	-	-	-	0	-
IPCホテル	-	-	-	-	-	0	保証書取得済
選手村	-	-	-	-	-	0	保証書取得済
主要メディアホテル	-	-	-	-	-	0	保証書取得済
IBC/MPC	-	-	-	-	-	0	保証書取得済
非競技会場数: 6							

9.5.2 競技開催時の移動距離(km)及びバスを利用した場合の平均所要時間(分)を表9.5.2に記入してください。

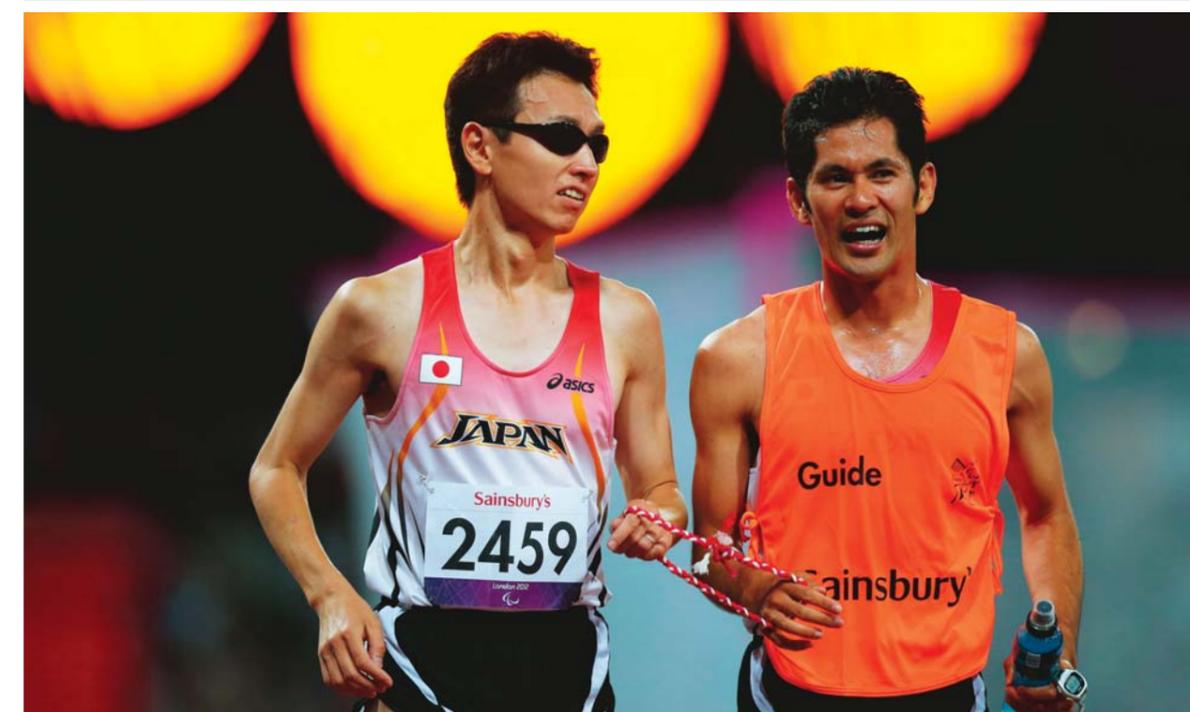
9.5.3 選手村を含むすべての競技会場及び非競技会場の立地を示す地図を提出してください。距離はすべてkmで示してください。

(地図131-132ページを参照。)

移動距離と時間

表 9.5.2 距離及び平均所要時間(2020年)

競技・施設名	成田国際空港		東京国際空港(羽田空港)		主要ホテル地区		選手村		メディア宿泊施設(有明)		IBC/MPC	
	km	平均時間	km	平均時間	km	平均時間	km	平均時間	km	平均時間	km	平均時間
成田国際空港	-	-	77	55	72	55	68	50	68	50	67	50
東京国際空港(羽田空港)	77	55	-	-	18	20	14	15	13	10	13	10
主要ホテル地区	72	55	18	20	-	-	4	5	9	10	9	10
選手村	68	50	14	15	4	5	-	-	5	5	5	5
メディア宿泊施設(有明)	68	50	13	10	9	10	5	5	-	-	<1	<5
IBC/MPC	67	50	13	10	9	10	5	5	<1	<5	-	-
アーチェリー	64	45	15	15	10	10	6	10	6	10	5	5
陸上競技	80	65	22	25	5	5	7	10	13	15	13	15
ボッチャ	69	50	12	10	9	10	6	5	<1	<5	<1	<5
カヌー	72	55	23	25	18	20	14	15	14	15	14	15
自転車競技(ロード・レース)	70	55	10	10	11	15	7	10	5	10	6	10
自転車競技(トラック・レース)	69	50	12	10	9	10	6	5	1	<5	2	<5
馬術	64	45	15	15	10	10	6	10	6	10	5	5
視覚障害者5人制サッカー	75	55	8	10	16	15	12	10	10	10	10	10
脳性麻痺者7人制サッカー	75	55	8	10	16	15	12	10	10	10	10	10
ゴールボール	69	50	12	10	10	10	6	10	2	<5	2	<5
柔道	79	65	22	20	4	5	16	20	14	15	14	15
パワーリフティング	69	50	12	10	9	10	6	5	<1	<5	<1	<5
ボート	72	55	23	25	18	20	14	15	14	15	14	15
セーリング	67	50	18	15	13	15	10	10	9	10	9	10
射撃	103	90	46	50	28	35	31	40	38	45	38	45
水泳	71	55	15	15	12	15	8	10	4	5	4	5
卓球	80	65	22	25	5	5	7	10	13	15	13	15
トライアスロン	70	55	10	10	11	15	7	10	5	10	6	10
シッティングバレーボール	69	50	12	10	9	10	6	5	1	<5	2	<5
車椅子バスケットボール(決勝)	64	45	15	15	10	10	6	10	6	10	5	5
車椅子バスケットボール(予選)	64	45	15	15	10	10	6	10	6	10	5	5
車いすフェンシング	64	45	15	15	10	10	6	10	6	10	5	5
ウィルチェアーラグビー	84	70	27	30	9	10	11	15	19	20	19	20
車いすテニス	69	50	13	10	10	10	6	10	2	<5	2	<5



9.5.3 - パラリンピック会場配置

ヘリテッジゾーン

- 1 開・閉会式
- 陸上競技
- 2 卓球
- 3 ウィルチェアラグビー
- 4 柔道

東京ベイゾーン

- 8 シットティングバレーボール
- 10 自転車競技(トラック・レース)
- 11 ゴールボール
- 12 車いすテニス
- 13 自転車競技(ロード・レース)
- トライアスロン
- 15 パワーリフティング
- 16 ボッチャ
- 17 視覚障害者5人制サッカー
- 脳性麻痺者7人制サッカー
- 19 ボート
- カヌー
- 21 セーリング
- 23 車椅子バスケットボール
- 車いすフェンシング
- 24 車椅子バスケットボール(決勝)
- 25 アーチェリー
- 26 馬術
- 27 水泳

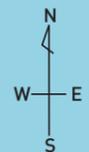
その他

- 32 射撃

- PV 選手村
- IPCホテル
- MMH 主要メディアホテル
- IBC/MPC 国際放送センター/メインプレスセンター

- ★ パラリンピック・ホスピタリティ・サイト
- 00 パラリンピック競技会場
- ★ ライブサイト
- 00 オリンピックのみで使用する競技会場

- 道路
- 鉄道
- 高速道路
- 郊外鉄道
- 主要幹線道路
- 地下鉄
- 中量軌道システム



9.5.4 オリンピック競技大会開催中に使用されない競技会場、又はパラリンピック競技大会の開催期間がテーマ8に記した保証の対象になっていない競技会場のすべてについて、その会場の使用とコマーシャル・ライツ(商業的権利)の管理に関する保証書を提出してください。
各会場施設が国際パラリンピック競技連盟(IPSF)の技術仕様を現時点で満たしている、又は将来満たすことを示すIPSFの署名を付した同意書を提出してください。

保証については、保証ファイルを参照のこと。

9.6 競技日程

以下を表9.6に記入してください。

- ・開会式及び閉会式
- ・1日あたりに授与される金メダル総数
- ・(競技別/種別ごとの)競技日程
- ・(競技別/種別ごとの)練習日
- ・(競技別/種別ごとの)決勝戦

競技日程

競技日程は、2012年ロンドンパラリンピック競技大会の評価を踏まえて作成している。

すべての練習会場は、パラリンピック選手村開村日である8月18日(火)から競技終了日まで利用可能である。

9.7 輸送

「各国パラリンピック委員会(NPC)選手団(選手及び選手団役員)」「競技大会役員(国内/国際技術役員)」「パラリンピックファミリー(IPC、国際パラリンピック競技連盟(IPSF)、来賓及びスポンサー)」「メディア」「観客」「大会スタッフ」を対象とした、パラリンピック競技大会開催期間中の輸送運営のコンセプトについて説明してください。

オリンピックと全く同等な水準の輸送サービスの提供

2020年東京パラリンピック競技大会においては、オリンピックと全く同等な輸送サービス及び運営を、パラリンピック選手特有のニーズに対する特別な配慮を持って行う。

具体的には、選手村から半径8kmという非常にコンパクトな圏内に射撃会場を除く全競技会場と主要施設を配置することにより、利用者の大多数が15分以内で移動可能な環境を提供する。また、クライアント別に徹底したニーズ調査を行い、車いす使用が可能なバリアフリー対応車両を十分に用意し、障害のある選手が安全に快適に活用できるよう特別な配慮が加えられる。最後に、道路や駅などの交通基盤のユニバーサルデザイン化やバスのノンステップ化などを2020年までにほぼ完了する。

こうした大規模な改良は東京都民のための恒久的な対策として実施され、東京にとって重要なレガシーとなるものである。

- ・NPC選手団(選手及び選手団役員)
最も重要性の高いグループである選手及び選手団役員が、競技において最高のパフォーマンスを発揮するため、オリンピックと同等な水準の輸送サービスを提供する。ただし、輸送車両や輸送スケジュールはパラリンピックならではの各競技の特性を踏まえて作成し、空港や選手村、競技会場などでは、手荷物の移動、用器具の荷積み、荷おろしを補助するために専用スタッフを配置する。
- ・競技大会役員(国内/国際技術役員)

選手村に滞在する競技大会役員及びクラス判定員には競技の特性やニーズに応じた専用の輸送サービスを提供する。また、選手村に専用の輸送案内デスクを設け、補助と輸送情報を円滑かつ迅速に提供する。

パラリンピック・ファミリー(IPC、IPSF、来賓及びスポンサー)
IPC、IPSF、来賓及びスポンサーに対しては、その重要性に応じてT1、T2及びT3の輸送サービスを提供する。今後、需要増加が見込まれるマーケティング・パートナーについては、特に徹底したニーズ調査を行い、必要な車両等の運行を確保する。

メディア
メディア関係者には、メディア専用輸送システムを提供する。このシステムはオリンピックと同様にハブ&スポーク方式により運行し、IBC/MPCとメディアホテル間についてはメディア向けシャトルバスを24時間運行する。バスにはメディア関係者の機材用のスペースも確保されている。従って、必要に応じて多くのバスにアクセスすることが可能となる。

観客及び大会スタッフ
観客及び大会スタッフについては、他に比類ない東京の公共交通システムを利用してオリンピックと同等の輸送サービスを提供する。東京都全体のアクセス向上のためのユニバーサルデザイン化は既に実施されており、大会前までに改良をほぼ完了する。ただし、オリンピック・パラリンピック両競技大会においては観客数に占める障害者の割合が高くなることを踏まえ、十分な補助スタッフを配置し障害を持つ乗客の円滑な輸送の補助を実現する。なお、チケットを持った観客及び大会スタッフに対する公共交通機関の無料化などのサービスもオリンピックと同様に行う。

さらに、複数の移動手段の間の所要時間を最小にするといった、観客ルートにおける「接続性」のコンセプトが真にアクセシビリティの高い輸送の確保に重要であるため、これには特別な注意を払う。オリンピック・パラリンピック競技大会の観客全てが、公共交通機関から会場、会場から観客向け施設等、ある場所から別の場所への移動を滑らかに簡単に行える。

表 9.6 競技日程

競技/種目	競技日														金メダル数計
	8.25 (火)	8.26 (水)	8.27 (木)	8.28 (金)	8.29 (土)	8.30 (日)	8.31 (月)	9.1 (火)	9.2 (水)	9.3 (木)	9.4 (金)	9.5 (土)	9.6 (日)		
開会式/閉会式	0														0
アーチェリー									4	3	2				9
陸上競技				9	18	21	17	17	24	20	17	23	4		170
ボッチャ				3				4							7
カヌー											6	6			12
自転車競技(ロード・レース)									18	4	6	4			32
自転車競技(トラック・レース)			5	5	5	3									18
馬術				2	3	2	4								11
脳性麻痺者7人制サッカー												1			1
視覚障害者5人制サッカー													1		1
ゴールボール											2				2
柔道				4	4	5									13
パワーリフティング				2	3	3	3	3	3	3					20
ボート					4										4
セーリング										3					3
射撃		2	2	2	1	1	1	1	2						12
水泳		15	15	15	14	14	15	15	15	15	15				148
卓球					11	10			4	4					29
トライアスロン					6	6									12
シットリングバレーボール											1	1			2
車椅子バスケットボール											1	1			2
車いすフェンシング									4	4	2	1	1		12
ウィルチェアーラグビー												1			1
車いすテニス									1		2	3			6
金メダル数計:	0	17	22	42	69	65	40	40	78	57	52	39	6		527



9.8 宿泊施設

以下の関係者グループを対象とした、選手村以外のパラリンピック競技大会宿泊計画について説明してください。

- ・競技大会役員(選手村内に個別のエリアが設定されていない場合)
- ・メディア
- ・パラリンピックファミリー
- ・観客

合理的な料金で、バリアフリーな宿泊施設を提供

認証されたパラリンピック関係者に対する適切な客室提供

大会組織委員会は、パラリンピック競技大会関係者に対して、合理的な料金で、快適かつアクセシビリティが確保された、車いすで利用可能なホテルを提供する。東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会は、競技会場や選手村へ短時間で移動できる地域に約6,600室の客室を既に確保している。これらのホテルは、パラリンピック競技大会時だけでなく、大会前後期間の客室提供に関する保証書に署名している。

IPC会長、IPC委員、NPC会長や事務局長には、立地条件の良い2つのホテル(ホテルオークラ東京及びANAインターコンチネンタルホテル東京)が特別料金で確保されている。パラリンピック競技大会の技術役員には、競技場へのアクセスの良いホテルの他、選手村内の専用地域にある宿泊施設を用意しており、競技運営上のニーズに適した宿泊環境を提供する。

大会組織委員会は、認証されたメディア関係者に、多様な価格のホテルの客室を提供する。メディア向けホテルはIBC/MPCに近く、パラリンピック競技大会の各競技会場へ短時間で移動できる地域にあり、インターネット設備など必要な通信機能を完備した客室を提供する。

あらゆる予算に対応し、アクセシビリティが確保された観客向け宿泊施設

東京には、豪華な5つ星ホテルから手頃な価格で宿泊できる朝食付きホテルまで、アクセシビリティが確保された多様なホテルが数多くある。パラリンピック競技大会という祭典を体験するために東京を訪れるすべての人が、予算、ニーズや好みに合わせた最適な宿泊施設を見つけることができる。

9.9 アクセシビリティ

9.9.1 会場、宿泊施設、交通施設及び都市全般などの分野に関して、障害者に配慮したインフラ施設の水準について説明してください。

優れたアクセシビリティの実現

2020年東京大会では、会場、宿泊施設、交通施設等において障害者だけでなく、高齢者等も含めた全ての人へ優れたアクセシビリティを提供する。日本では、建築物や交通機関における障害者等のアクセシビリティはすでに非常に高い水準にある。そして、2006年には高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律が制定され、基準適合義務の範囲の拡大がなされた。加えて、東京都では各種条例やガイドラインを制定し、より高水準のアクセシビリティを実現する体制が整備されている。

会場 ー完全なアクセシビリティの実現ー

東京都は、法令やガイドラインに基づいてオリンピック・パラリンピック競技会場を設計・建設することにより、優れたアクセシビリティを実現する。また、以下の5点に配慮した整備を行い、全ての会場をユニバーサルデザインに基づいた施設とする。

- ・誰もが同じように施設や設備を利用できる
- ・利用者の知識や能力、状況に関係なく、容易に施設や設備を利用できる
- ・特別な注意を払わなくても、危険なく施設や設備を利用できる
- ・使い勝手よく施設や設備を利用できる
- ・気持ちよく施設や設備を利用できる

また、この施設に十分な訓練を行ったスタッフを多数配置することで、きめ細やかな対応を行い、会場運営でも優れたアクセシビリティを実現する。

宿泊 ー誰もが利用しやすい宿泊施設ー

2020年東京大会は、パラリンピック競技関係者に対して、ユニバーサルデザインによる施設整備が行われ、アクセシビリティが確保された宿泊施設を提供する。また、パラリンピック選手村は域内の全ての施設に対して、高水準のアクセシビリティが実現される。

交通施設及び都市全般 ーユニバーサルデザインの積極的な導入ー

日本では、会場や宿泊施設のみならず、駅やバスターミナル(乗降施設)、都市公園などについてもアクセシビリティを確保すべきことが法令で定められており、交通施設を含む都市全般のアクセシビリティの向上を図る体制が構築されている(東京都における鉄道駅の段差解消 約9割、東京都におけるノンステップバスの導入率 約8割、(2012年現在))。

また、東京都では「2020年の東京」計画を策定し、ユニバーサルデザインの考えに基づき、「人」をまちづくりの中心に据え、「より安全に」「より安心して」「より快適に」暮らすことのできるような福祉のまちづくりを進めている。

この計画の実施により、2020年には、東京の全ての駅へのエレベーターやスロープ及び障害者用トイレの設置、全ての都営バスのノンステップ化などがほぼ完了し、現状でも高いレベルにある東京のアクセシビリティは一層向上する。

すべての人に対する適切な標識、その他の誘導・援助

2020年東京大会では、すべての観客が会場への道順をすぐに把握でき、会場へのアクセシビリティが最大化されるよう適切な標識及びシステムを確保する。見やすくわかりやすいアイコンが使用され、標識は最低でも2か国語(英語と日本語)で表示される。サイズ、色、コントラスト、そして掲示位置が適切かどうか特別な注意を払う。重要なのは点字案内板や視覚障害者誘導用ブロック等の視覚障害者向けに特化したシステムが導入される点であり、これは今後の大会における新基準及び先例となるだろう。

9.9.2 パラリンピック競技大会に関して、計画/建設段階からアクセシビリティ基準を適用する旨の保証書を、所管官庁から入手し、提出してください。

東京都からの保証書が添付されており、オリンピック及びパラリンピック競技大会のための全施設と周辺エリアが以下の法令を満たし、ユニバーサルデザインに基づくアクセシビリティを実現することを保証している。

法令

- 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(2006年 国土交通省)
- 高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例(2006年 東京都)
- 東京都福祉のまちづくり条例(2009年 東京都)

また、日本国政府は、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく基準適合性審査や基準適合命令を行うことで、公共交通機関の旅客施設及び車両等について同法に基づくアクセシビリティ基準の遵守を確実にする。

9.10 障害への理解

適切で専門的かつ慎重を期した態度をもって障害者とのコミュニケーションを取り、ともに問題解決が図れるようにするため、有給スタッフ、請負業者、ボランティア、セキュリティ要員全員に対して、どのような障害理解/教育訓練プログラムを実施するのか説明してください。

障害者への理解

1970年、障害者の自立と社会参加支援等を推進し、障害者の福祉を増進することを目的に制定された「障害者基本法」は、わが国における障害者福祉施策の基本となる事項と、国、地方公共団体及び国民の責務・役割等が規定されている。2004年の改正により、障害を理由とする差別の禁止等が新たに定められた。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるあらゆる取組は、この法律に服する。

知識豊富な指導者・人材

障害者分野について知識と経験を有する人物を、リーダーやスタッフ、ボランティアとして採用するため、特別な募集プログラムを実施する。オリンピックとパラリンピックでは同じスタッフ・ボランティアが従事し、両大会において同質で高いレベルのサービスを提供する。

わが国では、1964年の東京パラリンピック競技大会を契機として、1965年に財団法人日本身体障害者スポーツ協会が設立され、協会が養成・認定する障害者スポーツ指導者制度が発足した。現在、専門分野の講義・実技講習を受講した21,000人を超える経験豊富な指導者が全国で活動している。

また、東京都では2006年に地域での障害者スポーツ活動を支援するため、スポーツボランティア制度を発足させた。

このほか、大分国際車いすマラソン、東京マラソンなど障害者スポーツ大会を含む多くの国際大会に専門のスポーツボランティアが多数参加し、イベントを支えてきた。

教育プログラムの策定

大会組織委員会は、専門家や障害を持つ人と協議のうえ、スタッフやボランティア向けの教育訓練プログラムを策定する。その内容としては、次のものを含むものとする。

- ・障害に対する知識や理解、障害者の有する課題に関すること
- ・障害の種類や、その種類別に使用される器具や装備に関すること
- ・障害者の支援、介助に関すること
- ・コミュニケーションの手法、特別な配慮や思いやり等に関すること

また、大会組織委員会はこれらのプログラムを、スタッフやボランティアが従事する分野に合わせて作成するが、特に観客サービスやセキュリティの要員に対しては、専門家により特別の訓練を実施するほか、東京消防庁は、火災時等における初期消火・応急救護・避難誘導等の訓練を実施する。

9.11 コミュニケーションとメディア

9.11.1 コミュニケーション計画全体で、パラリンピック競技大会についてどのようなプロモーション活動を行いますか。とりわけ一般国民の間に障害者スポーツに関する知識や関心を高めるためのおもな方策例を示してください。パラリンピック振興のためにどのような予算を用意していますか。その予算額の詳細について、9.12.2のパラリンピック予算で述べてください。

コミュニケーション戦略

2020年東京オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会は、それぞれ異なる特徴と雰囲気有するが、“Discover Tomorrow”という東京2020のビジョン及び60日間の連続した一つのスポーツの祭典というコンセプトに基づき実施される。したがって、パラリンピック競技大会のコミュニケーション戦略はオリンピック競技大会の戦略と一体となったものとなるが、そこにはパラリンピックの独自の要素も含まれる。

その戦略には、あらゆるコミュニケーション手段 - PR、広告、国内外のメディア・リレーション、ソーシャル・メディアやイベントプロモーション - を活用し、そこに日本の優れたITも巻き込んだ、統合されたプロモーションプログラム及びメディア活動が含まれる。オンライン・コミュニケーションやデジタル・メディアも最大限活用する。また、IPCとの緊密な連携のもと、パラリンピック・ファミリーやトップスポンサー、ローカル・パートナーやメディア・ライツ・ホルダーなど他の関係者とも全面的に協力して進めていく。

そのプロモーション活動の主役はもちろんアスリートである。彼らはスポークスマン、教育者、感動を与えるヒーロー、模範となる。

障害者スポーツ振興の普及・促進

1964年の東京パラリンピックに引き続き開催された国内2部大会は、車いす使用者に加え他の障害を持つ選手が参加した世界初の歴史的大会としての意義を有している。

翌年の1965年から身体障害のある人々を対象とする「全国身体障害者スポーツ大会」、1992年からは知的障害のある人々を対象とする「全国知的障害者スポーツ大会」を開催し、2001年からはこれらを統合し、「全国障害者スポーツ大会」を国民体育大会終了後に毎年開催し、障害者スポーツの普及・促進だけでなく、障害のある人々に対する理解、そして社会における共生と参加を国民に促してきた。

また、東京都は障害の有無や年齢、性別に関わらず、だれもがスポーツに親しみ、スポーツの力を享受する「スポーツ都市東京」を実現するため、健常者スポーツと障害者のスポーツを一元的に所管する組織体制を整え、スポーツ行政を一体的、総合的に推進している。さらに障害者スポーツのあるべき姿や方向性を指し示す指針として2012年「東京都障害者スポーツ振興計画」を策定し、中長期にわたって障害者スポーツを体系的、継続的に着実に推進していく。

その先駆的な取組として2013年には、国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会を、ひとつのスポーツの祭典「スポーツ祭東京2013」として開催し、東京を舞台に、スポーツを通じて障害のある人となない人の連帯の輪を全国に広げ、ともに機会と経験を分かち合う機会とする。

コミュニケーション戦略に加え、このような取組を行っていくことで障害者スポーツに関する知識や関心を高めていく。

パラリンピックプロモーション予算としては、広告宣伝費を5.8億円計上している。

詳細についてはテーマ9.12.2及び別冊の財政包括データを参照のこと。

9.11.2 様々な影響が予想されるなかで、とくに接続機器、物流面において大きな影響があるため、IOCはパラリンピック競技大会のIBCをオリンピック競技大会用のものと同じにすることを推奨します。パラリンピックIBC/MPCがオリンピックIBC/MPCと同じであるかどうかを、明記してください。同一でない場合は、代替サイトとして利用可能な施設を示してください。

IBC/MPC

パラリンピック競技大会のIBC/MPCは、オリンピック競技大会と同一の施設を使用する。

9.12 財務

9.12.1 パラリンピック競技大会の資金調達方法及び財源負担者について説明してください。国、地域政府、自治体その他の当局を含む、すべての財源負担者から保証書入手し提出してください。

厳しい管理を実施

運営資金の半分を確保

大会組織委員会は、パラリンピック競技大会の予算をオリンピック競技大会の予算に統合し、オリンピック競技大会と同様の厳しい予算管理を行う。

また、パラリンピック競技大会に係る収益を確保するため、IPC及びIOCと協議の上、戦略的かつ効果的なマーケティング活動を実施する。

日本政府及び東京都は、パラリンピック競技大会の運営費用の50%を支援することを保証している。

保証については、保証ファイルを参照のこと。

9.12.2 パラリンピック競技大会の予算を示してください。予算作成及び通貨換算に使用する原則、予算表は財政のテーマにおいて提示した予算と整合していること。

下記表及び別冊の財政包括データを参照のこと。

9.13 閉会式

パラリンピック競技大会の開会式及び閉会式に使用予定の会場について簡単に説明してください。立地や座席数及びその会場が既存か新設予定かを示してください。閉会式が提示済みの競技会場で行われない場合には、9.5.3で要求されている地図上にその会場位置を示してください。

閉会式

パラリンピック競技大会の開会式及び閉会式は、2019年までに新たに建設される最新鋭のオリンピックスタジアムで開催する。スタジアムの座席数は、多数の車いす用座席を含め、8万席である。

表 9.12.2 パラリンピック競技大会予算

A - 収入		2012 日本円 (百万円)	2012 米ドル (千ドル)	%	B - 支出		2012 日本円 (百万円)	2012 米ドル (千ドル)	%
1	テレビ放映権	300	3,409	2	B1	設備投資 競技会場 パラリンピック選手村、 その他の村 IBC/MPC	0	0	0
2	ローカルスポンサーシップ	2,250	25,568	16					
3	チケット売上	4,070	46,246	29					
4	ライセンス	120	1,364	1	B2	運営 競技会場 パラリンピック選手村、その他の村 IBC/MPC	641	7,285	4
5	公的支援 国 都道府県 区市町村	7,000	79,545	50	10	人件費	996	11,317	7
					11	情報技術	2,067	23,489	15
					12	式典及び文化	2,352	26,727	17
					13	医療サービス	100	1,131	1
6	その他	290	3,293	2	14	ケータリング	553	6,279	4
					15	輸送	2,384	27,091	17
					16	セキュリティ	1,224	13,910	9
					17	広告・宣伝	575	6,534	4
					18	管理	1,299	14,766	9
					19	パラリンピック競技大会のテストイベント	135	1,532	1
7	資金不足	0	0	0	20	その他	1,704	19,364	12
	合計	14,030	159,425	100	21	剰余金	0	0	0
						合計	14,030	159,425	100